

新型コロナウイルス感染症のモニタリング状況

【集計期間（陽性探知日）】

R4.1/3(月) ~ R4.1/9(日)

令和4年第1週

<感染の状況（直近1週間）>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
陽性者数	① 合計 ^{※2}	522人	29人	-	-
	② 対人口10万人	33.9人	1.9人	15人以上	25人以上
	③ 前週との増加比	18.00	0.88	-	-
④ 感染経路不明割合（%）		68%	72%	50%以上	50%以上
⑤ 陽性率 ^{※3} （%） = 陽性者数 ÷ 検査件数		9.4%	1.2%	5%以上	10%以上

※1 ステージ分類の指標は、新型コロナウイルス感染症対策分科会資料(令和3年4月15日)参照

※2 市内医療機関から川崎市保健所に届出のあった人数を掲載しています。

※3 ⑤陽性率について

自費検査を行う市外の検査機関等で検体が採取された方についても市内医療機関から陽性者の届出がされる事例が多数確認されており、①陽性者合計から市外の検査機関等で検体採取が確認された陽性者数を除いて算出しています。検査件数は、川崎市健康安全研究所による検査件数と市内医療機関から直近の日曜日までに新型コロナウイルス感染症医療機関等情報支援システム(G-MIS)により報告があった検査件数(速報値)の合算を用いています。

<医療提供体制等の負荷>

項目		現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>		1/9現在	1/2現在	-	-
⑥ 入院患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	23人	16人	-	-
	確保病床数	477床	477床	-	-
	病床使用率	4.8%	3.4%	20%以上	50%以上
⑦ 重症患者 (陽性確定例)	入院中の患者数	0人	0人	-	-
	確保病床数	69床	69床	-	-
	病床使用率	0.0%	0.0%	20%以上	50%以上
療養者数 (入院、自宅及び宿泊療養) (陽性確定例)	⑧ 合計	367人	37人	-	-
	⑨ 対人口10万人	23.8人	2.4人	20人以上	30人以上

<参考数値>

項目	現況	前週	ステージⅢ ^{※1} 指標	ステージⅣ ^{※1} 指標
<報告日>	1/9現在	1/2現在	-	-
⑩ 入院率 ^{※4} (%) = 入院中の患者÷療養者数 (陽性確定例)	6.3%	43.2%	40%以下	25%以下

※4 入院率は、神奈川モデルに基づき、入院適応を総合的に決定しており、「入院率」の指標では病床ひっ迫状況を計ることができないため、参考数値

<変異ウイルス検出状況>

ゲノム解析結果^{※5} (懸念される変異株 (Variant of Concern : VOC^{※6}) の検出状況)

※5 川崎市健康安全研究所、国立感染症研究所、民間検査機関の解析結果を掲載

※6 国立感染症研究所が分類した「主に感染性や重篤度が増す・ワクチン効果を弱めるなど性質が変化した可能性のある株」

懸念される変異株 : VOC	直近1週間 1/3 ~ 1/9	前週 12/27 ~ 1/2	累計 3/11 ~ 1/9
α株 (アルファ)	0件	0件	203件
β株 (ベータ)	0件	0件	0件
γ株 (ガンマ)	0件	0件	0件
δ株 (デルタ)	14件	46件	600件
ο株 (オミクロン)	-	-	-

ο株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行います。

<評価>

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、昨年（令和3年:2021年）にみられたいわゆる第5波は、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして急速に減少、その後も第49週（12月6日～12日）までは減少が続いていましたが、第50週、第51週、第52週（前週）は、新規陽性者数、入院中患者数、入院中重症患者数は若干の増加傾向となりました。年が明け、令和4年第1週（1月3日～9日）は、重症患者は0人が続いているものの、新規陽性者数、入院中患者数の増加が目立ってきています。

ステージ分類は、第41週（10月4日～10日）、第42週と2週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となりました。第43週は、感染経路不明割合がステージⅣとなりましたが、再び第44週（11月1日～7日）～第46週はステージⅣ、Ⅲのない状況が3週連続しました。第47週～第52週は感染経路不明者の割合がステージⅣとステージⅢ解消を繰り返していましたが、令和4年第1週は、6項目中2項目（検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅢ、6項目中2項目（対人口10万人あたりの新規陽性者数、感染経路不明者の割合）がステージⅣとなりました。

<感染の状況：直近1週間>

- ① 新規陽性者数は、第33週（8月16日～22日）4308人をピークに減少が進み、第48週8人・第49週7人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週17人、第51週33人、第52週（前週）29人から、第1週（今週：1月3日～9日）は522人と急増しました。
- ② 対人口10万人あたりの累積新規陽性者数も第33週（8月16日～22日）279.7人をピークに減少が進み、第48週・第49週0.5人と今年最も低い数値が続きましたが、第50週1.1人、第51週2.1人、第52週（前週）1.9人から、第1週（今週）は33.9人と大きく増加が見られました。
ステージ分類は第39～52週（前週）と14週連続してステージⅣ、Ⅲ解消となっていました、第1週（今週）はステージⅣとなりました
- ③ 前週との増加比は、第30週（7月26日～8月1日）2.32をピークに減少が進み、第48週0.40、第49週は0.88でしたが、第50週2.43、第51週1.94、第52週（前週）0.88から、第1週（今週）は18.0と増加しました。
- ④ 感染経路不明者の割合は、第33週（8月16日～22日）の81%をピークに減少に転じ、第41週に47%となりステージⅢ解消となりました。第43週はステージⅣ、第44週はステージⅢ解消となりましたが、第47週～第50週ステージⅣ、第51週ステージⅢ解消、第52週（前週）は72%でステージⅣと前後していましたが、第1週（今週）は68%と数値は減少したもののステージⅣに留まったままとなっています。
- ⑤ 検査陽性率は、第32週に54.9%と急上昇しました。この検査陽性率の急上昇については、表の※3で説明し、算定方法を34週から変更しています。そのため連続性が失われますが、新算出方法では第32週の42.9%をピークに減少に向かい、第48週、第49週は0.2%でした。第50週は0.4%、第51週は0.8%、第52週（前週）は1.2%から、第1週（今週）は9.4%と増加が見られています。
ステージ分類では第38週まではステージⅣ（10%以上）でしたが、第39～第52週（前週）は14週連続してステージⅢ（5%以上）解消となっていました。第1週（今週）は9.4%と上昇したためステージⅢとなりました。

<医療提供体制等の負荷：報告日1.9現在>

- ⑥ 入院中の患者数は、第34週（8月23日～29日）286人をピークに減少が進み、第49週2人から第50週5人、第51週14人、第52週（前週）16人、そして第1週（今週）は23人と増加しています。
確保病床数は現在477床となっており、第52週（前週）3.4%から、第1週（今週）4.8%と若干増

加しています。ステージ分類では第39～52週（前週）、そして第1週（今週）と15週連続してステージⅢ解消となっており、病床としては落ち着いている状態が続いています。

- ⑦ 重症入院患者数は第34週（8月23日～29日）68人をピークに減少が進み、第47週～第50週は4週連続して0人、第51週は1人、第52週（前週）、第1週（今週）は0人となっています。

重症者の確保病床は現在69床となっており、第47週～第50週は重症患者数0となったため、重症病床使用率も4週続けて0.0%、第51週は2.9%、第52週（前週）、第1週（今週）は再び0.0%となっています。

ステージ分類ではステージⅣ（50%以上）が7週連続した後、第37週、第38週がステージⅢ（20%以上）、そして第39～第1週（今週）と15週連続してステージⅢ解消となっています。

- ⑧ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者総数は、第33週（8月16日～22日）4143人をピークとして減少が進み、第49週は8人となりましたが、第50週14人、第51週36人、第52週（前週）37人から、第1週367人と急増しています。

- ⑨ 陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人は、第33週（8月16日～22日）269.0人をピークに減少が進み、第48週0.8人、第49週0.5人となりましたが、第50週0.9人、第51週2.3人、第52週（前週）2.4人、今週23.8人と急増しています。

ステージ分類は、第39～52週（前週）の14週連続してステージⅢ解消となっていました。第1週（今週）はステージⅢとなりました。

<変異ウイルス検出状況>

今週はデルタ株が14件追加となり、令和3年3月11日～令和4年1月9日までにゲノム解析で判明したデルタ株累計は600件となっています。

新たな変異株（オミクロン株：o）が海外で急増し、国内でも海外感染例のみならず国内で感染したと思われる例も増加しています。川崎市モニタリングでは、オミクロン株は国内においても懸念される変異株（VOC: Variant of Concern）とみなされているところから「変異ウイルス検出状況」に加えております。11月28日までは0件と表示しましたが、今後o株が検出された場合は、神奈川県及び厚生労働省と連携して対応し、発表は神奈川県が行うため、o株に関しては目下のところバー（-）表示としております。

川崎市内における新型コロナウイルス感染症のモニタリングでは、感染の状況は第33週（8月16日～22日）、医療提供体制等の負荷については第34週（8月23日～29日）をピークとして減少が続き、新規陽性者数は第48週・第49週は今年の最低値となりました。しかし、第50、第51週、第52週の微増傾向から、年が明け令和4年第1週（1月3日～9日）は、重症患者は0人が続いているものの、新規陽性者数、入院中患者数の増加が目立ってきています。全体としては落ち着いている状況ではありますが、ステージ分類では6項目中2項目（検査陽性率、陽性確定例の入院・自宅および宿泊療養者数の対人口10万人）がステージⅢ、6項目中2項目（対人口10万人あたりの累積新規陽性者数、感染経路不明者の割合）がステージⅣとなりました。

これまでの国内外の報告ではオミクロン株感染者は軽症者が多いということは良いニュースですが、感染の広がりスピードが速く、急速な感染者数の増加は一般生活に影響を及ぼし、また低い割合であっても感染者の急増に伴って重症者の増加する可能性について危惧されているところです。若干の数値の増加で大きな不安感を持つ必要はありませんが、一方で注意が緩みすぎてしまい安心が油断とならないよう、リスクの高い行動には気を付けながら、日常生活がさらに回復し、それが維持できるよう、引き続きご協力くださいますようお願いいたします。

「新たな感染症とともに暮らせる年」、行きすぎない程度の注意をしながら普通の生活ができる年になることを本年の目標にしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。